# 2026 年度

（令和 8 年度）

# 事業計画書（案）

2026 年 4 月 1 日より 2027 年 3 月 31 日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

# 2026年度事業計画策定にあたって

2025年度は、コロナ以前の午後までの通常開催に戻して２年目を迎え、より一層ふれあう機会を増やす試みを加速させた１年となりました。設立時より大切にしてきた、障害の有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現に向けて、ふれあうことから始まるコミュニケーションの機会は、継続して充実させていきたいと思います。また、多くの参加者と交流する中で、共に励ましあい、共に支え、共に楽しめるプログラムとなるよう準備を進めてまいります。

当基金設立以来、継続して取り組んでいる「ふれあいの広場事業」では、自動車総連の全面的なご協力をいただきながら、スポーツを通じて、障害の有無に関わらず共に参加し楽しむことのできるナイスハート・ふれあいのスポーツ広場を全国津々浦々で開催しています。
2025年度は、2018年度以来２度目の４７都道府県完全制覇を達成する見込みです。引き続き４７都道府県での開催を目指し、安心・安全で笑顔あふれる大会となるよう続けてまいります。

「ノンバーバル･コミュニケーションワークショップ」は､2019年度の大雨による被害のあった長野県内の障害者施設で開催することができました。
2026年度においては、2024年能登半島地震で被害のあった石川県内の障害者施設での開催を目指し、言葉を超えたコミュニケーションの手法を知っていただけるよう取り組みます。

ニュースレターは6、9、12、3月に発行しています。当基金の活動内容や実施予定を記載し郵送、e-mailにてお届けをしています。また、ホームページにおいても掲載しています。

厳しい財政運営の中、賛助会員や寄付者の募集活動を継続して取り組み、ニュースレターおよびホームページの内容について検討してまいります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度の事業が滞りなく展開できますよう、引き続きのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

２０２６年４月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

# １．ふれあいの広場事業

## （１）ふれあいのスポーツ広場の実施

ふれあいのスポーツ広場は、障害の有無に関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。1992 年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、開催しています。

2025 年度は、昨年度同様に午前3競技に昼食とアトラクションを挟んで午後1競技を実施しました。競技そのものは以前と変わりませんが、開会式から交流が深まるように工夫を凝らし、参加施設と実行委員（組合員）が一緒に整列することに変更し、結果として、開会宣言を待たずに、参加施設と実行委員（組合員）が挨拶を交わす場面が見受けられる等、以前と比べて大幅にふれあう時間が増えました。

2026 年度は、ふれあいのスポーツ広場の意義・目的を踏まえつつ、多くの参加者同志の交流機会を増やし、より楽しんで頂けるよう、全都道府県での実施を目指します。

競技内容については、日本福祉大学の藤田紀昭教授を中心に、ユニバーサルスポーツをキーワードに、障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムを柱に、昨年度の知見を踏まえつつさらなる深化に努めます。

引き続き、近年の猛暑にも対応すべく、多くの関係者、ボランティアの皆様のご支援をいただきながら、暑さ対策にも万全を期して全力で進めてまいります。

**実施時期** 2026 年 4 月～ 2027 年 3 月
**開催地域** 全都道府県を予定
**開 催 数** 全国４７会場（予定）
**共　　催** 全日本自動車産業労働組合総連合会
**後　　援** （予定）内閣府、スポーツ庁、開催都市、開催都市教育委員会等
**協力団体** 日本福祉大学
仙台ユニバーサルスポーツ研究会
（公社）日本エアロビック連盟
**プログラム内容**
日本福祉大学の藤田紀昭教授の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技を中心に実施します。

**競技内容（例）**

**☆ロープ送り**

・２列縦隊で座った列の先頭から、最後尾に向かってロープを送っていき､最後尾でUターンして最前列へロープを送る。ロープの最後が最前列の参加者に到達したら、ばちと交換して太鼓等を打つ。早く打ったチームが勝ち。

**☆ホールインワン**

・音楽の合図が鳴ったら、パラシュートを上下にリズムに合わせて動かす。指導者の合図でパラシュートを右に回し、その後ボールを入れる。全員で協力してパラシュートの中央の穴にボールを落とす。ボールを穴に落とした後、早く座ったチームが勝ち。

**☆風船バレー**

・２チームに分かれ人の列で区切りを作る「人間ネット」を中心線とする。各チーム３０～４０個の風船を持ちスタート｡風船を打ち合って最終的に風船の個数が少ないチームが勝ち。

**☆じゃんけんダンス**

・インストラクターの進行で、ふりつけダンスとじゃんけんダンスを行う。
じゃんけんダンスは、＜わきプレス４回＞→＜拍手4回＞→＜膝たたき4回＞→＜じゃんけんポン＞の順番で行なう。

**☆スローエアロビック**

・スローエアロビックは、シンプルで自然な動きを取り入れながら、カロリー消費ではなく、気分を好転させることを重視しています。音楽に合わせて楽しく体を動かすというエアロビックの本質的な魅力を、運動強度が低い運動へと裾野を広げようという考え方に基づいています。
※出典：(公社) 日本エアロビック連盟 web ページ

## （２）ノンバーバル・コミュニケーションワークショップの実施

障害の有無に関わらずお互いが尊重しあえるように、ノンバーバル（非言語）という方法でコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

2026 年度には、2024 年能登半島地震の被害のあった石川県内の障害者施設での実施を計画いたします。

実施時期：2026 年度下半期予定
対 象 者：障害のある方、教職員、ボランティア等
ファシリテーター：庄﨑　隆志氏（office 風の器主宰・俳優・演出家）
メイミ氏（漫談家・特定非営利活動法人笑顔工房 理事長）

# ２．開発、普及及び育成事業

## （１）各事業報告書の発行

当基金が事業展開をしている中で、障害の有無に関わらず共に楽しむことのできる手法や考え方を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるように、下記の報告書を発行致します。

刊行時期：2027 年 3 月
発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
発行報告書：ふれあいのスポーツ広場 / ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ

## （２）ニュースレターの発行

当基金が設立以来事業活動の基盤として周知に努めている、障害の有無に関わらず共に楽しみ共に取り組みながら相互理解を深めていく「ふれあいの広場」事業に関して、その理念や活動内容、そしてプログラムの手法やイベント情報を中心に掲載した機関誌「ないすはあと」を年 4 回発行します。

発行月：６月、９月、１２月、３月
発行数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
内　容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

# ３．調査研究事業

## （１）ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

ふれあいのスポーツ広場で実施しているユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、また、ふれあいのスポーツ広場全体のプログラムのアップデートを図るために、同様の取り組みを行っている競技指導者の方々と、様々な立場の視点から意見交換を行い、ふれあいの事業に活かす意見交換会を実施致します。

実施時期：2026 年度下半期予定
構 成 員：障害者スポーツの指導者、福祉関係者等